

令和2年度 通学路安全対策推進モデル地域研究事業の取組

内子町教育委員会

1. 取組の目的

教育委員会、警察、道路管理者、学校が連携して交通安全の推進組織を設置し、合同点検等を実施することで対策必要箇所の整備を計画的に推進し、児童生徒が安全に通学できるように通学路の安全確保を図る。

2. 取組の内容

(1) 合同点検：令和2年8月25日（火）

点検箇所：5箇所（その他箇所は、担当管理者で実施。）

実施内容：夏季休業中に、モデル地域である内子地域から危険箇所5箇所を選定し合同点検を実施した。実践委員会の構成員を中心に点検を実施し、それぞれの立場でどのような対策が可能か検討した。



(2) 通学路安全推進実践委員会

構成員：12名

(大洲河川国道事務所、南予地方局大洲土木事務所、大洲警察署、愛媛県教育委員会、南予教育事務所、内子小学校、交通安全対策アドバイザー、内子町建設デザイン課、内子町教育委員会)

・第1回通学路安全推進実践委員会

令和2年8月12日(水)実施

議題：①通学路安全対策推進モデル地域研究事業について

②内子町通学路安全対策推進モデル事業実施計画について

③通学路合同点検について

・第2回通学路安全推進実践委員会

令和2年12月22日(水)実施

議題：①通学路合同点検結果及び改善状況について

②内子小学校交通安全学習会の報告について

(3) 内子小学校交通安全学習会(通学路安全対策アドバイザー派遣事業の活用)

実施日：令和2年12月7日(月)

講師：愛媛大学社会共創学部教授 松村暢彦

対象：内子小学校6年児童 52名

内容：「みんなでつくろう内子小学校ヒヤリマップ」

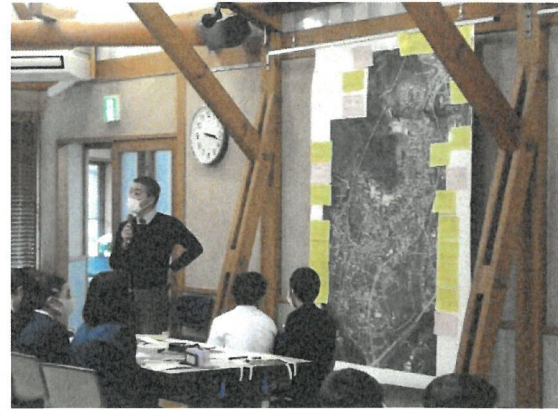
目的：①ヒヤリ・ハット体験の見つめ直しを通じた自発的な交通安全行動の定着

②交通安全対策を通じた社会のしくみへのコミット

③ヒヤリマップを通じた全校生徒の交通安全行動の意識付け(教訓の伝承)

④保護者の交通安全行動の意識づけ





3. 取組の成果

モデル地域拠点校におけるアドバイザー派遣事業を実施したことで、児童や保護者の交通安全行動に対する意識の向上を図ることができた。また、実践委員会メンバーでの協議や連絡調整等、危険箇所を一緒に確認することで情報共有することができた。

4. 今後の課題

補修、改修などのハード面での対策を要する箇所については、時間と費用がかかることから早急な対応が難しい場合があるため、児童生徒一人一人の危機管理意識を育成していくソフト面での対策が重要である。このようなことから、今回実施した「内子小学校交通安全学習会」は有意義な交通安全教育となった。

今後も、関係機関と連携し危険個所の情報共有や合同点検を実施し、児童生徒の安全確保に努めるとともに、内子小学校で実施した交通安全学習を町内各学校へ情報提供し交通安全教育の推進に役立てていきたい。